

ポスター発表 午前

2月9日(金) 11:00~12:00 体育館

<提案のポイント>

学年が進むにつれて、自己肯定感が低下する傾向がある。道徳科の特質を生かし、多くの考えにふれ、物事を多面的・多角的に考えることで、自分らしさや生き方を見直すようになると考えた。安心して自己表現できるように、授業に「認め合う対話」を取り入れた。その結果、考えの共通点や相違点を分かり合い、道徳的価値の自覚が深まることで、自分なりの確かな考えをもち、自己を肯定的に捉えるようになってきた生徒の姿が確認できた。

①

中学校 道徳
[総合教育センター研修]
「認め合う対話」を通して自己肯定感を育む
中学校第3学年道徳科の指導

潟上市立天王南中学校 教諭 石井 和史

②

小学校 キャリア教育(音楽)
[総合教育センター研修]
考えや思いを他者に広く伝えることができる
児童の育成
～キャリア教育の視点を重視した「学びの発信」を通して～

男鹿市立船川第一小学校 教諭 富田澄美子

小学校高学年児童には、考えや思いを他者に広く伝え、様々な人々に能動的に関わる力を高め、自己の成長を意識し続ける必要がある。本研究では、音楽科の学習にキャリア教育の視点を取り入れた「学びの発信」のプロセスを設定し、「聞く力・自分を表現する力」と「他者に伝える力」の育成を試みた。その結果、「学びの発信」のプロセスに有効性が見られ、考えや思いを他者に広く伝えることができる児童の育成につながった。

③

中学校 国語
[総合教育センター研修]
中学校国語科における「根拠を明確にした考え」をもつための思考の要素を踏まえた単元開発
～複数紙の新聞記事教材を活用して～

大館市立田代中学校 教諭 佐藤 整

「読むこと」の領域では、文章を読んで、自分の考えをもつことが目標の一つとして示されており、研究協力校の生徒は、「複数の資料を読み、意見を評価した上で、自分の考えをまとめる」問題を苦手とする傾向にある。そこで、「根拠を明確にした考え」をもつことができるよう、複数の新聞記事を教材化し、思考の要素を踏まえた単元開発を目指した。検証授業を行い、書き手の意図や情報同士の関係を考える活動を通して、有効性を検証することができた。

④

中学校 社会
[総合教育センター研修]
中学校社会科における歴史的な見方や考え方を養う指導の工夫
～秋田の地域素材を取り入れた学習を通して～

湯沢市立湯沢南中学校 教諭 小原 聡

本研究協力校の社会科の課題として、「資料を使い、比較・関連付けして適切に表現すること」が挙げられる。そこで、学習指導要領で重視される「社会的な見方や考え方」を養う研究を進めた。歴史的分野において、秋田の地域素材を取り入れ、資料から生徒の疑問を引き出し、年表や系図、地図等を基に関係図を完成する実践を通して、社会的事象を見いだすなど「社会的事象の歴史的な見方や考え方」の力が高まった生徒の姿を見ることができた。

⑤

高等学校 英語
[総合教育センター研修]
コミュニケーション英語Ⅰにおいて話す意欲を高める指導の工夫
～オリジナルイラストを基に伝え合うグループ活動を通して～

県立新屋高等学校 教諭 高崎 雅恵

コミュニケーション英語Ⅰで、話す意欲を高めるために、オリジナルイラストを作成し、その内容を伝え合うグループ活動を行った。既習の語彙や表現を使い、英語で考えを伝え合う活動を通して、自分の英語が伝わることを実感できれば、話す意欲が高まると考えた。検証の結果、英語を話すことはきっかけがあればできると肯定的に回答した生徒が82%を超え、「もっとうまく話したい」という記述もあり、話す意欲を高めることができた。

ポスター発表 午前

2月9日(金) 11:00~12:00 体育館

<提案のポイント>

⑥

中学校 特別活動
[総合教育センター研修]
学校行事等の振り返り場面を通して醸成する
中学生の自己有用感
～学校と家庭が協働で行う「認め」のフィードバックを生かして～
大仙市立大曲西中学校 教諭 佐々木慎英

今、中学生の自己有用感の醸成が求められている。そこで、学校と家庭が協働で生徒を認め、それを基に生徒同士が認め合う場を設定した。保護者や家族からの「認め」を生徒にフィードバックする活動をハートフル作戦と名付け、学校行事等を活用して年間4回実施することで自己有用感の醸成を図った。その結果、学校と家庭が協働して取り組むことが、生徒の自己有用感の醸成に有効な手立てであることを確認できた。

⑦

中学校 特別支援教育 授業改善
[総合教育センター研修]
中学校知的障害特別支援学級における自尊心を高めるための支援の工夫
～ルーブリックを用いた生活単元学習を通して～
横手市立横手北中学校 教諭 佐藤 暁生

中学校知的障害特別支援学級での生活単元学習において、ルーブリックを用いた支援をすることで、生徒の自尊感情を高めることができるのではないかと考えた。生徒が作成したルーブリックを教師の支援や生徒の自己評価に活用し、検証を進めた。自尊感情測定尺度による自己評価シートや生徒の活動の様子から分析し、ルーブリックは生徒の自己評価と教師の支援改善の両面で活用することで、自尊感情の高まりにより効果があることが分かった。

⑧

特別支援学校 特別支援教育 授業改善
[総合教育センター研修]
児童の「存分に遊ぶ姿」に焦点を当てた評価表の作成と活用
～特別支援学校小学部「遊びの指導」の授業改善を目指して～
県立栗田支援学校 教諭 沖口 祥子

特別支援学校小学部「遊びの指導」において、教員が児童の遊びの様子を共通の視点で評価するために、児童の「存分に遊ぶ姿」を具体化した評価項目を設けた評価表を作成し、遊びの様子を評価した。それを基に教員間で話し合い、次時の目標や手立てを具体化し授業実践したことで、児童が自分から遊具で遊んだり友達や教員に働き掛けたりといった「存分に遊ぶ姿」を引き出すことができた。また、その積み重ねが「遊びの指導」の授業改善につながった。

⑨

特別支援学校 特別支援教育 体験活動
自分の考えや思いを伝えることができる姿を目指して
～ブルーベリー栽培活動を中心とした寄宿舎での取組～
県立大曲支援学校 寄宿舎指導員 伊藤 葵

本校の特色である地域資源、人材を活用した体験活動にブルーベリー栽培活動が挙げられる。栽培から販売までを行う中で、自分の考えやアイデアを出し合い、自分の役割が分かり、自信をもって活動する姿が見られている。また、地域の方と関わることで、その一員として役立っているという意識が高まってきた。さらに今年度、活動の幅を全校体制に広げると共に、校外での販売や「けやきカフェ」を通じた取組を紹介する。

⑩

中学校 ふるさと・キャリア教育
[県立近代美術館研修]
秋田蘭画を通じた江戸中期の文化史指導法の工夫
～ふるさと秋田に愛着がもてる生徒の育成を目指して～
横手市立十文字中学校 教諭 高橋 英憲

秋田県は今年、人口100万人を割ったことが報道され、労働力の不足や地域社会の維持が危惧されている。中でも進学や就職を理由とする社会減が年間4000人を超えるなど大きな関心事となっている。県立近代美術館が所蔵する作品を基に、秋田蘭画に取り入れられている当時としては斬新な技法や構図を紹介するとともに、秋田が他県に誇る先進性や先取性を紹介する。ふるさと秋田に誇りをもち、秋田の魅力を語れる生徒の育成を目指す授業展開を提案する。

ポスター発表 午前

2月9日(金) 11:00~12:00 体育館

<提案のポイント>

⑪

小・中学校 特別活動 自然体験活動
[あきた白神体験センター研修]
児童生徒が能動的に取り組むことができる自然観察活動についての研究
～事前および活動時の効果的な支援を通して～
八峰町立峰浜小学校 教諭 保坂 久

あきた白神体験センターの海活動の中で、最も多く見かける貝類への関心は低かった。本研究では、事前に呼びかけや実物を含む資料提示を行ってから貝探しに取り組んだ。その結果、子どもたちが、実物を見付ける－外見の観察－自ら捕まえる－動き等の観察、という活動全体において能動的に取り組むことができた。理科学習で関心の偏りが大きい生物分野においても、事前に対象への関心を高めることが、能動的な活動につながると期待される。

⑫

小・中学校 体育・保健体育
スポーツに苦手意識をもつ児童生徒への支援について
～健康教室参加者のスポーツに対する意識調査から～
秋田県スポーツ科学センター
副主幹(兼) スポーツ主事 平野 真

スポーツ科学センターの健康教室に通っていただく方々は、健康に興味があり、スポーツ好きで、スポーツに抵抗のない方々ばかりだろうか。そこで漠然としたイメージではなく、調査をして客観的なデータを集めることにした。生涯スポーツを実践されている方々の実態から「できなくても好き、大切」という姿が浮かび上がってきた。小・中学校の体育・保健体育でのスポーツに苦手意識をもつ児童生徒への支援の一助になれば幸いである。

⑬

特別支援学校 特別支援教育 障害理解推進
[文部科学省委託 学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)推進事業]
よつば学習(障害理解授業)
～附属小学校と附属特別支援学校の交流及び共同学習から～
秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
教諭 相場真里子

秋田大学教育文化学部の附属学校園は、同一エリアに幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校が設置されている。この利点を生かし、附属小学校と附属特別支援学校で今年度から本格的に「よつば学習(障害理解授業)」に取り組み始めた。「よ:よく知る, つ:つながる, ば:バリアフリー」をキーワードに全学年で障害理解授業に取り組んでおり、積み重ねてきた交流及び共同学習が、障害理解につながるような学習の在り方を提案する。

⑭

特別支援学校 特別支援教育 授業改善
児童が自ら選択し、存分に遊ぶための工夫について
～遊びの指導における絵本や物語を題材にした豊富な遊びの空間の設定を通して～
県立横手支援学校 教諭 佐藤 撰
教諭 佐藤真紀子

本校小学部では、「児童が自ら選択し、存分に遊ぶ姿」を目指して、絵本や物語を題材とした小学部合同の「遊びの指導」の授業づくりに取り組んだ。題材に沿って設置した豊富な遊びコーナーの中から、児童が興味・関心のあるやりたい遊びを選択し、お話の世界に没頭して楽しみ、自然な児童同士の関わりが生まれた実践について、環境設定の工夫や教師の支援の工夫を紹介する。

⑮

特別支援学校 学校経営
[文部科学省委託 コミュニティ・スクール導入促進事業]
地域とともにある学校づくりを目指して
～特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入に向けた取組について～
県立ゆり支援学校 教諭 熊地 需

学校運営協議会準備委員会の設置・開催や公開授業研究会での同委員による授業参観などを通して、地域及び学校の教育資源を活用した特色ある教育活動(地域応援活動～みんな元気プロジェクト～など)への意見や提言をいただき、学校運営及び教育活動の改善を図った。また、本校職員はCS先進校視察なども行い知見を広げた。さらに、CSディレクターを活用し、現場実習先の新規開拓や就労支援、作業学習製品の開発などに取り組んだ。特別支援学校としてCSの在り方を発表する。

ポスター発表 午前

2月9日(金) 11:00~12:00 体育館

<提案のポイント>

⑯

小・中学校 道徳

[いのちの教育あったかエリア事業]

自他を大切にできる心を育てる道徳教育の実践
～小・中連携による「いのちの教育」への取組を通して～

八郎潟町立八郎潟小学校	教頭	浅野	光子
	教諭	山本	みゆき
八郎潟町立八郎潟中学校	教頭	伊藤	暢
	教諭	佐藤	恵

「自他を大切にできる心」を育てることを共通目標に据え、小・中が連携して道徳教育に取り組んだ。「生命尊重・思いやり」の心を育てる体験活動の推進、問題解決的な学習過程による道徳の授業の実践、「道徳コーナー」等の掲示物の工夫による環境整備の3点を共通実践の柱として事業を進めた。相互に情報を交換し、事業計画の見直しと改善を図る場を定期的に設けて共通理解を図りながら取り組んだ結果、成果が見られるようになった。

⑰

小・中学校 児童生徒支援

[あきたリフレッシュ学園研修]

「元気」と「やる気」、「つながる喜び」を育む学習活動や体験活動の在り方

北秋田市立合川小学校 教諭 矢旗香緒理

本学園は、学校を休みがちな小・中学生に個別学習や様々な体験活動を通して、心身のリフレッシュを図る機会を提供している。自分に自信をなくし、物事に対して消極的になっている児童生徒の「元気」と「やる気」を育み、仲間や様々な人と「つながる喜び」を、学園の活動を通して味わわせた。発表では、「できる・分かる」を増やす学習指導と自分の成長を感じられる体験活動の工夫に焦点を当て、その方法と成果について紹介する。

⑱

高等学校 英語

[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

伝え合う力を高める授業づくり
～スピーキング力の向上を目指して～

県立横手城南高等学校 教諭 高橋 和也

英語でコミュニケーションをする力を高めるために本校が行ってきた取組を紹介します。新課程2年目から授業改善を中心にこの3年間取り組んだことと、その成果と課題を中心に発表する。この3年間で中学校との連携・接続とCAN-DOリスト活用の重要性を感じました。授業での指導はもちろん、その他効果的な中・高接続の在り方やCAN-DOリストの活用法などについて活発に情報を交換できればと思う。